

弓力と矢の重さ標準

1匁 = 3.75g

22 kg	- 8匁	(30g)	2匁(弦)
21 kg	7匁8分	(29.2g)	1匁9分(弦)
20 kg	7匁6分	(28.4g)	1匁9分(弦)
19 kg	7匁3分	(27.3g)	1匁8分(弦)
18 kg	7匁	(26.3g)	
17 kg	6匁8分	(25.5g)	
16 kg	6匁6分	(24.7g)	
15 kg	6匁3分	(23.6g)	
14 kg	5匁	(18.7g)	
13 kg			
12 kg			
11 kg			

弦をよく切る人は 5~7%の範囲で
重くするとよい。

弓力を1kg落としたときは矢重を2分位軽く

弓の弦顔を見るとき、

(二へ)

鮠・・・南シナ海当りに多い鮠という海魚の浮袋をにかわ質にしたもの

現在の鰾は鹿皮を煮込んだもの（大糖（大鹿）・小糖（小鹿）・ノロ（中国産）がある）

直立の姿勢で、下関板を左手に持ち、その手を真すぐに、真下に伸ばし、

上弭を下に付ける。弓を持った左手は、丁度おへその下あたりにつく恰好に

なる。弦を身の中心線におき、弓体を左右に回すように見る。

この時、上下の成り場の出かたが同じ位か、下成りがわずかに出た感じに

見える時が、上下の成場のバランスとしては一番無難な型です。

実際に計ってみると、下成りより上成りの方が四cm位広い時に同じ

位に見え、三cm位の時は、下成りがわずかに出ているようにみえるはずで

握りが中心より下にある日本の弓の構造上、使っていくうちにだんだんと下成り

が強くなりがちなので新弓のうちは下成りがわずかに出ている感じの方が

良いと思います。計るところは上は鳥肩節当り、下は下成り節当りで

計ります。